



冷麵 吉田邦幸 蛇口 東徳門百合子
職安 宮下晴吾 礎石 杉野正恵
すいません 栗生

第十六回「澤」秋季鍛錬会のお知らせ……………4

「澤の十二句」募集のお知らせ……………6

澤通信句会のお知らせ……………8

第十四回同人句会のお知らせ……………10

特集／「澤」創刊十六周年記念吟行大会
参加記……………24

パワフル大阪 森山くるみ

大阪へようこそ 高橋まり子

「牛すじを食べ損ねてしまいました」 戸田いぬぶぐり

あいりん地区吟行四回 宮下晴吾

「本当に好きなんです」 山中広海

作品集……………30

記念吟行大会係分担表……………36

参加者名簿……………37

小澤 實 大阪 パルミラ 十五句……………14

高橋睦郎 季語練習帖 第八十一回……………16

潺潺集 小澤 實選……………18

通天閣 高橋まり子 大阪城 早崎直子

前方後円墳 馬場尚美 淀川 葛西省子

串揚げ 結城あき 昼餉 篠崎弥生

炊いたらあかん 高橋和志 持つてきてんか 戸田いぬぶぐり

白衣 野口桐花 速し 川上弘美

道修町 岸トミ子 チンせんといて 岡本春水

澤俳句鑑賞196

仁平 勝……………38 鈴木尚子……………40

窓

俳書を読む

石田郷子『草の王』／山尾玉藻『人の香』

小坏健水『六丁目』冬魚……………42

詩文学芸書を読む

カレン・ウィルキンほか著 柴田元幸、小山太一訳

『エドワード・ゴリーの優雅な秘密』

村上佳乃……………44

総合誌俳句鑑賞

「俳句」七月号／「俳壇」七月号 野崎海芋……………46

俳句結社誌を読む

「粹」第22号 馬場尚美……………48

定例句会の秀句 村戸弥生……………50

通信句会の秀句 佐藤晃市……………52

俳句を豊かにするもの

海とオゾン層と俳句と私 中井文彦……………54

太刀はいづこに(医王寺) 佐藤晃市……………55

潺潺集巻頭作家インタビュー 左官屋宇兵衛……………56

澤集巻頭作家エッセイ 佐藤昭子……………57

同人代表句 大野善雄／堀田季何……………58

同人一句鑑賞 眞瀬雪延／村田さやか……………59

澤笥……………60

澤四十句 小澤 實選……………62

選後独言

アジアのようにぎらぎらした大阪 小澤 實……………64

澤集 小澤 實選……………66

遠藤ちひろ／加納 燕／松野篤子／福原桂子／冬魚／磯貝

一沙／池田瑠那／小日向美春／椎野順子／高取恒子／ころ

ん／森山くるみ／眞瀬雪延

新入会員 96

第十四回同人句会開催について／8月号発送報告……………97

消息／正誤表……………98 澤俳句叢書一覧……………99

雑誌「澤」購読のご案内／購読料更新のお知らせ

「俳句を豊かにするもの」原稿募集のお知らせ……………100

第191回定例会9月ご案内……………101

第189回定例会作品 小澤 實選……………102

第183回通信句会作品 小澤 實選……………104

澤基金募集のお願い……………106

澤基金応募者芳名／投句のご案内……………107

澤句会・カルチャー一覧……………108

広告……………109 後記……………114

表紙デザイン・山口信博＋撮影・鈴木静華

澤

平成28年9月1日発行

澤 俳句会

頒価 1,200円

縄文の小壺である。時代は縄文後期ごろか。出土地は、東北地方であろう。ごく小さい壺である。ざくろほどの大きさである。よく研磨した上で、凸部にこまかな細工を掘り込んでいる。とても握り心地がいい。

酒席に置いて、塩漬けの海胆とか海鞘の塩辛を入れてみたい。ちびちびそれらを楽しんだ後、酒でも注ぎたいようなかたちをしている。でも、土器だから無理。内部には厚い朱が残っている。もっとずっとたいせつなものがしまわれていたのだろう。

小澤 實